

特集

祭りの時期がやってきた

祭りその1

曾於市子どもフェスタ

曾

於市の子どものための祭典「第14回曾於市子どもフェスタ」

が10月19日（青少年育成の日）に末吉総合センターと末吉総合体育館で開催されました。今年のテーマは「新時代のまぐあけだ！ みんなで行こう子どもフェスタ！」（テーマ考案・岩北小谷口秋音さん）です。

当日は午前中に少年の主張大会（詳細は次ページ）、柳迫小学校の発表、各青少年事業の体験発表があり、午後からは合計14の「わくわく体験コーナー」が開かれました。参加した約400人の子どもたちはそれぞれ楽しい時間を過ごしました。



少年

年の主張大会には、市内の小中学生の代表が出場し、学校や家庭、地域での経験や将来の夢などについて堂々と発表しました。

少年の主張大会各賞一覧 (敬称略)

【小学生の部】

最優秀賞

「暉琉、はんばないって」

中山暉琉（岩川小6年）

優秀賞

「みんな待っててね」

山下美月（月野小6年）

優良賞

「私の夢プロジェクト」

大路古都寧（末吉小6年）

「ありがとう、富士山。」

そして、みんな。」

西丸知伺（財部南小6年）

「ふるさと再発見」

新田拓海（高岡小6年）

「私の夢」

森山心暖（深川小6年）

「私達の宝物」

栗山愛理（財部北小6年）

【中学生の部】

最優秀賞

「あなたの意見は宝物」

松本陽菜（末吉中3年）

優秀賞

「夢に向かつて」

戸越和望（大隅中3年）

「偏見や差別のない社会へ」

和田涼夏（末吉中3年）

小学生の部【最優秀賞】

「暉琉、はんばないって」

末吉小学校6年 中山暉琉

「はんばない。」

水泳の瀬戸大也選手の泳ぎを見て、ぼくはさげんだ。今年の世界水泳選手権の競泳から、ぼくは目がはなせなかった。来年の東京オリンピックのために、練習を今まで以上、強化してきたそうだ。

瀬戸大也選手は、ぼくの一ファン好きな選手だ。瀬戸選手には、最強のライバル、萩野公介選手がいて、二人で切磋琢磨している。お互いを高め合っている。小さいころからの、二人の映像がよくテレビで流れる。必死に努力する瀬戸選手、という印象がある。だから、ぼくは瀬戸選手を応援してしまう。

ぼくも、三歳からスイミングに通っている。生まれたころか

ら、骨に病気があり、装具を着けて生活している。お医者さんから唯一許された運動が、スイミングだった。しかし、ぼくは水が苦手。スイミング通いは苦痛だった。少しずつ水に慣れるための水遊び、水中もぐりなどをくり返し、いつのまにか水への恐怖心はなくなった。それでも、スイミング通いは好きではなかった。

「行きたくない。」
と、送り迎えをしてくれる父、母には言えず、たまに会う祖母に、

「やめたい。」
と、泣いて言ったことを覚えて

いる。
そんなころ、スイミング教室に仲のよい友達が増えてきた。今まで何気なく動かしていたバタ足に、力が入るようになった。動かすところを意識して、練習するようになった。息止めも、潜りも、前より長くできるようになった。友達が負けたくない、と思ふようになった。きらいだったスイミング教室が楽しくなってきた。

いやなこと苦手なこと、となりにだれかいて、いっしょに分かち合えるだけで、楽しいことに変わるんだ。今まで、どうせぼくはできない、他の人はうらやましい、と思っていた。でも、みんながんばっているんだ、比べることなんかない、ということに気づいた。今は、自分にはできないことを、人が成しとげたときに、素直に、

「すごい。」
と感動したり、また、自分ができたときには自信をもてるようになった。瀬戸選手も、萩野選手がいたからこそ、今の実力と努力、という武器を持つことができたのだろう。

スイミングを始めて八年、最近、友達とタイムを競い合っている。友達と拍手をおくり合ったり、ハイタッチをしたりして、楽しく練習している。あのときやめなくて本当によかった。競い合える喜びと続けることの大切さを知ることができた。

ぼくも、いつか言われたい、
「暉琉、はんばないって。」

中学生の部【最優秀賞】

「あなたの意見は宝物」

末吉中学校 3年 松本陽菜

自分の意見を持つこと。私がその大切さについて考えるようになったきっかけは、生徒会活動でした。

私は生徒会の学習委員長を務めています。私たちが行っている生徒会活動の一つに、末吉中をより良くするために何をするべきか話し合うことがあります。私が生徒会役員になってすぐの定例会では、他の役員みんなは積極的に意見を発表していました。その姿を見ながら、何も意見のなかった私はただその意見に賛同することしかできませんでした。私が生徒会役員になってから少し経ち、「末吉中は良くなった」と考える人が増えてきても、私はまだ自分の意見を持つことができていませんでした。「私のように意見がない人がいる今のままで、本当に末吉中は良くなるのだろうか。」そう思い始めてから私は、末吉中の良いところを見つ

けてはもっと良くする方法を、末吉中の悪いところを見つけてはその改善策を考えるようになりました。そして、生徒全員が生徒会活動に関心を持てるように、目安箱を設ければ良いのではないかという意見を持つことができました。自分の意見を持つということは、ものごとと真剣に向き合っているということなんです。そしてこの、自分の意見を持つことは、私たちがこれから生きていく中で、とても大切なことになると思うのです。

二〇一四年に、オックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン准教授が発表した論文には、AIの発達により10年後には今ある職業の半分がなくなるといふ大胆な予測がされています。スポーツの審判や事務員などは、ほぼ一〇〇パーセントの確率でなくなるそうです。AIの発達による自動化が進み、人間が必要なくなるとも言われています。そんなAIの飛躍の時代に飛び込んでいく私たちに必要とされているもの、そ

れは自分の意見を持つことだと思っています。記憶力や計算力はAIに勝つことはできません。しかし、私たち人間には自分で考え、ものごとを生み出す力があります。自分の意見を持ち、それを主張することは、人間だからこそできることなのです。

しかし、自分の意見を持つこととは、ほかの人の意見を否定することとは、必ずしも同じとは限りません。人にはそれぞれ違った価値観があり、考えや意見も人によって違ってきます。自分の意見を持つ上では、その違いを認めることが大切なのではないでしょうか。私が「目安箱を設けたい」という意見を発表したとき、生徒会役員みんなは私の意見を認めてくれました。また、「それなら、こうしたらもっと良くなると思うよ。」と提案をしてくれる人や「箱作りを手伝うよ。」と声をかけてくれる人もいました。みんなが私の意見を認めてくれたことで目安箱の設置は実現し、様々な提案をしてくれた

ことで当初の計画よりずっと良いものになりました。自分の意見はしっかりと持ちながら、相手の意見にも耳を傾け、認め合う。その姿勢が、新しい発見や考えを生む力になると思います。

「私はこうだと思う。」その意見に、正解も不正解もありません。自分で真剣に考え生み出した、あなたの意見は宝物です。私は、意見を持ち、それを主張できるようなったあの日から「AIに負けない強みができた」と感じています。みなさんも、自分の意見もしっかりと持っていれば、これから来るAIの飛躍の時代も、少し楽しみになるかもしれません。



最優秀賞を受賞したふたり

左・松本陽菜さん
右・中山暉琉さん

祭りの時期がやってきました

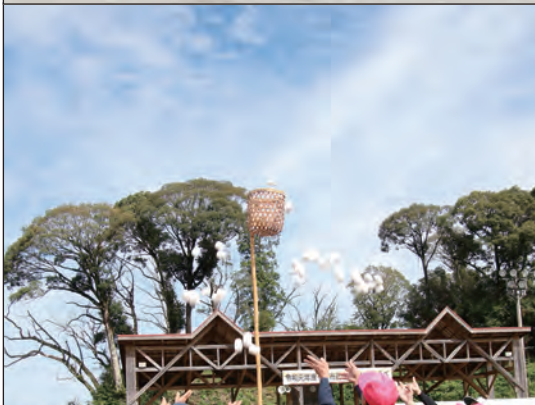
祭りのその2

そお市民体育祭

in たからべ

城 山陸上競技場で10月27日に「そお市民体育祭 in たからべ」が開催され、財部町を中心に市内から延べ1800人が競技に参加しました。聖火ランナーは鹿児島県中学校柔道大会で準優勝した財部中3年の野田涼介くんが務めました。

自治会や校区公民館のゼッケンに身に着けた選手たちが各競技で競いました。財部町内の園児によるダンスや財部小金管バンドの演奏なども披露され、子どもたちの頑張る姿に大きな拍手が送られました。



祭りの時期がやってきた

祭りのその3 弥五郎どん祭り

今年も秋の風物詩「岩川八幡神社の弥五郎どん祭り」が11月

3日、岩川八幡神社を中心に盛大に開催されました。子どもたちに引かれた弥五郎どんが鳥居をくぐり、登場すると大勢の観衆から大歓声があがりました。巨体を揺らしながら悠々と市街地を練り歩き、岩川の町を盛り上げました。

前日には『花育教室』が岩川小学校で行われ、岩川小6年の児童が参加。スプレー菊などを使ったブーケ作りを体験しました。このブーケは弥五郎どん祭り武道大会のビクトリーブーケとして提供されました。



